

## 指定管理者評価シート

事業名	生涯学習センター運営管理費	所管課(電話番号)	教育委員会生涯学習部生涯学習推進課(211-3871)
-----	---------------	-----------	-----------------------------

### I 基本情報

<b>1 施設の概要</b>			
名称	札幌市生涯学習センター (札幌市教育センター開放施設を含む)	所在地	西区宮の沢1条1丁目
開設時期	平成12年8月25日	延床面積	12,106㎡
目的	市民に自主的な活動及び交流の場を提供し、生涯にわたる学習活動を総合的に支援することにより、豊かな生涯学習社会の実現を図る。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習に関する学習機会の提供及び指導者等の人材育成に関すること。</li> <li>・生涯学習に関する調査、研究、企画立案及び啓発に関すること。</li> <li>・生涯学習に関する情報の収集及び提供並びに相談に関すること。</li> <li>・生涯学習に関する事業を行う団体の連携及び交流の支援に関すること。</li> <li>・学習成果の発表及び鑑賞の支援に関すること。</li> <li>・生涯学習センターの施設を使用に供すること。</li> <li>・その他生涯学習センターの設置目的を達成するために必要な事業。</li> </ul>		
主要施設	ホール、講堂、研修室、音楽・演劇スタジオ、メディアプラザ(図書、視聴覚、学習相談コーナー)等		
<b>2 指定管理者</b>			
名称	公益財団法人札幌市生涯学習振興財団		
指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日		
募集方法	非公募 <small>非公募の場合、その理由: 当該施設は、札幌市における生涯学習施策を推進していくための総合的な中核施設であり、指定管理者には生涯学習に関する専門的な知識や事業の企画立案に関するノウハウが必要であるとともに、運営管理にあたっては、長期的な視野に立った継続的な事業運営や人材育成が必要であることから非公募とした。</small>		
指定単位	施設数: 1施設 <small>複数施設を一括指定の場合、その理由:</small>		
業務の範囲	施設維持管理業務、貸室業務、学習機会提供事業、学習活動支援事業等		
<b>3 評価単位</b>			
	施設数: 1施設 <small>複数施設を一括評価の場合、その理由:</small>		

II 平成30年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価			
1 業務の要求水準達成度						
(1) 統括管理業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定		A	B	C	D
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 学習ニーズを踏まえた市民参画による魅力的な事業を推進した。</li> <li>▼ 有機的なネットワークの形成と学びのコミュニティを創造した。</li> <li>▼ 創意工夫による効率的・効果的な事業運営と施設運営を継続した。</li> <li>▼ 快適に利用できる施設環境を整備し、利便性を向上させた。</li> <li>▼ 障がいを理由とする差別の解消の推進を行なった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本方針に基づき、管理運営を実施することができた。</li> <li>・利用者をはじめ市民からの要望等を踏まえ、学習成果を生かす場を充実させるなど、市民ニーズに応える事業を実施することができた。</li> <li>・民間企業や行政機関、専門機関などと連携し、それぞれの持つノウハウとネットワークを生かした高度な学習機会を提供することができた。</li> <li>・ご近所先生企画講座において、講座後のサークル化を積極的に促し、受講者間のつながりを継続できるよう支援した。</li> <li>・利用者の多種多様な学習活動に適した施設利用方法を提案することや、計画的修繕等を実施することで利用者の利便性向上と安全確保を図ることができた。</li> <li>・老朽化した館内の整備を日常的に行なった。特にエスカレーターやエレベーターなどの設備については迅速に復旧することで、快適利用の維持に努めた。</li> <li>・館内各所のスロープや手摺りについて日常整備を図った。</li> <li>・障がい者用トイレについても、ウォシュレットなど環境整備を行なった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な管理運営により要求水準を達成していると認められる。</li> <li>また、生涯学習センター他3施設からなる生涯学習総合センターの施設管理においても、統括的な役割を果たしたことについては評価したい。</li> </ul>			

## ▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績

- ▼ 貸室の平等利用を図るため、毎月抽選による受付を実施した。抽選受付は先着順とし、受付方法についての効率化やわかりやすい説明を心がけた。
- ▼ 講座の受講機会の平等を図るため、受講希望者多数時にはコンピュータによる自動抽選を実施した。
- ▼ 多くの市民に情報を提供するため、HPや広報誌の発行、広報さっぽろへの掲載などの広報活動を行った。
- ▼ 貸出ロッカーについて、広く利用者が平等に利用できるよう、抽選方式を採用した。

・関係条例や規則の遵守に努め、平等利用の原則を確保することができた。

・平等利用は公の施設における重要な要素であることから、引き続き、利用者への丁寧な説明を続けながら、平等利用の確保に努めていただきたい。

## ▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

- ▼ 事務用品について、リサイクル商品や、詰め替えて再利用できるものを積極的に使用し、ゴミの軽減に努めた。また、再生紙利用の推進、資源回収によるゴミのリサイクル化など環境配慮に努めた。
- ▼ 過剰冷房・暖房を控え、事務室の設定温度の上・下限を定めるとともに、5月～9月はクールビズ、11月～3月はウォームビズを実施した。また、貸室においても、利用者に対して設定温度での空調利用を要請した。
- ▼ 利用者に支障が生じない範囲で、館内の照明間引きを増やし、トイレの便座暖房の抑制、使用していない部屋の照明の消灯を徹底するなど、節電に努めた。
- ▼ 空調機の断続運転や外気導入量の制限をするなど、省エネ診断でアドバイスをいただいた取組を実施し、更なる環境配慮に努めた。

・リサイクル品の購入や、ゴミのリサイクル化、冷暖房の節約などに努め、可能な限り環境に配慮するよう努めた。

・地震発生時の節電の取組だけでなく、利用者にも配慮しながら日常的に省エネ策に取り組む姿勢は評価できる。  
引き続き、利用者の声に耳を傾けながら、取組を進めていただきたい。

## ▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

- ▼ 統括管理責任者としてセンター長を配置した。組織体制は、総務・施設管理部門として施設課を、事業部門として事業課を置き、それぞれの責任者として課長を配置した。また財団本部を独立することで、法人のコンプライアンスやガバナンスをより徹底できる体制を確立した。
- ▼ 業務分担、指揮命令系統、連絡系統等を定めた。
- ▼ 係単位で定期的に会議を行い、様々な問題について協議するとともに、文書やメール等により職員間での情報を共有することで、市民サービスの維持向上に努めた。

・財団総務とセンター総務を分離した組織改変による業務の迅速化・正確性向上を継続して行った。

・施設の運営管理においては、突発的な出来事に対して迅速に対応するために、日常的なシミュレーションが必要不可欠である。  
そのため、引き続き、研修等による実効性のある職員の意識啓発、職員間の情報共有体制の確保に取り組んでいただきたい。

	<p>▼ 人材育成のための研修を実施するとともに、外部研修等に参加した。また、企画立案に関わる職員の研修参加に努めた。(研修会参加一覧参照)</p> <p>▽ 管理水準の維持向上に向けた取組</p> <p>▼ グループウェアの運用</p> <p>▼ 会計・財務システムの運用</p> <p>▼ 貸室受付システムの運用</p> <p>▼ 事故対応要領に基づき、事故防止、事故発生時における、組織内の役割分担、緊急連絡体制などを整備し、迅速かつ適切な対応を心がけた。</p> <p>▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)</p> <p>▼ 貸室利用受付時においても暴力団員または関係事業者を相手方としないよう確認している。</p>	<p>・各システム等の適切な運用により、管理水準と利用者の利便性の向上に努めた。</p> <p>・職員全員が事故防止を心がけ、安全確保を図ることができた。</p> <p>・震災時についても、連絡体制を整備し、複合施設他団体とも連携を取るよう努めた。</p> <p>・委託業務に係るマニュアルに基づき適正な管理をすることができた。</p> <p>・「札幌市暴力団の排除の推進に関する条例」「暴力団の排除にかかる照会事務マニュアル」を遵守し、委託業務等の適正な履行を確保することができた。</p>	<p>・生涯学習センターは本市生涯学習推進の中核施設であり、今後は人材育成、情報発信といった地域の生涯学習に携わる個人や施設・団体を支援する機能が一層求められていく。</p> <p>そのためには、センター職員の資質向上を欠かすことはできないため、積極的に職員が外部団体等の研修に参加できる風土づくりを進めていただきたい。</p> <p>・管理水準の維持向上のためには、情報共有体制の確保が不可欠である。担当職員不在時における応援体制の確保に引き続き取り組んでいただきたい。</p> <p>・第三者への業務委託について、指定管理者制度上、その実施責任はすべて委託者にあることを十分に認識していただきたい。また、委託者として説明責任を十分に果たすことのできるよう委託業務の履行確認を徹底していただきたい。</p>
--	---	--	--

▼ 警備・清掃・施設管理などの委託業務において、日報、月報、報告書により管理状況を確認するとともに、適宜打合せを行い、現状の把握と今後の対応などの情報交換を図り、迅速かつ適正な維持管理に努めた。

・故障、破損等の早期発見や、不審者への対応の協議など、日常的に情報の共有が図れることにより、適正に業務を監督することができた。

・再委託による連絡系統の細分化により、緊急時の対応に遺漏が出ることはないよう指揮命令系統について日常的に確認を行っていたきたい。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回 (8月28日)	委員5名参加 ・前年度の事業報告 ・前年度利用者アンケート集計結果と回答について ・当該年度4-7月苦情要望等の整理・分析について ・Web仮予約保持期間の延長について協議 ・ちえりあホールリハーサル50%割引制度の導入について
第2回 (12月7日)	委員6名参加 ・当該年度8-10月事業報告 ・当該年度8-10月苦情要望等の整理・分析 ・敷地内禁煙についての報告 ・北海道胆振東部地震の対応について報告
第3回 (3月13日)	委員6名参加 ・当該年度11-1月事業報告 ・当該年度11-1月苦情要望等の整理・分析 ・Web仮予約保持期間延長についての進捗報告
<p>&lt;協議会メンバー&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌国際大学教授 佐久間章</li> <li>・西のコンサ通り商店会会長 安田敦司</li> <li>・さっぽろ市民カレッジ講師 竹田慎一</li> <li>・公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会札幌エルプラザ公共4施設館長 齊藤隆弘</li> <li>・札幌市教育委員会生涯学習推進課長 大場智裕</li> <li>・札幌市生涯学習センター長 堀澤 純一</li> </ul>	

・Web仮予約保持期間延長の際には、他施設の事例や料金収納、直前キャンセルについてのペナルティを課してもよいのではないかといったところまで、幅広い意見・提案をいただきました。

・限られた開催回数の中で有意義な協議を行うためには、期間の隔たりにく協議会を開催することはもとより、協議前提となる事業報告と事業実施結果の分析が重要である。そのため、日常的に統計資料から課題を洗い出しするなど、モニタリング機能の強化を図っていただきたい。

<p>▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)</p> <p>▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入している。</p> <p>▼ 流動性や利回り等に配慮し、金融機関及び金融商品の安全性に一層留意した対応を行っている。また、資産の健全性確保を図るため、「資産管理運用方針」等を定め、遵守している。</p> <p>▼ 「経理面での不正防止対策について」及び「小口現金取扱要領」に基づき、現金残高、銀行口座、郵便振替口座の確認、領収書の作成及び保管、金券類、小口現金の管理を行い、適正な事務処理の徹底に努めた。</p>	<p>・所管部局による検査及び公認会計士による外部監査の結果、適正に管理しているとの評価を受けることができた。</p>	<p>・財務に関する不祥事を防止するためには、定期的な外部監査だけでなく、職員間での日常的なチェック体制の確保を欠かすことはできない。</p> <p>引き続き、各種要領に基づき、徹底した適正管理に取り組んでいただきたい。</p>
<p>▽ 要望・苦情対応</p> <p>▼ 要望・苦情に対しては、利用者ニーズとして記録し、速やかな対応を心がけた。また、毎月届いている要望等を職員で供覧し、情報の共有に努めた。</p>	<p>・意見、要望、質問について迅速な回答と対応ができた。</p> <p>・施設に寄せられる意見の中には、回答先が不明なものもあるため、施設としての考え方や対応を利用者に伝えるために、ホームページ上に回答コーナーを設け、できるだけ多くの意見等に対応できるよう取組を進めた。</p>	<p>・要望や苦情に対して適切に対応し、そうした声を業務改善につなげていくためには、業務の根拠となる仕様書やマニュアルの内容に精通している必要がある。</p> <p>そのため、こうした施設の考え方を利用者に伝えていく取組と併せて、慣習に則るばかりではなく、根拠を意識した業務実施に努めていただきたい。</p>
<p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)</p> <p>▼ 利用者アンケートや各事業の受講者アンケート等によるセルフモニタリングを実施した。利用者アンケート等での要望・意見については、所管局とも連携し適切に対応した。</p>	<p>・利用者アンケート等により、利用者の施設利用に関する要望・意見等を把握するとともに、苦情等の整理・分析を行い、その結果を運営協議会に報告した。そこでの協議結果</p>	<p>・記録・モニタリング・報告・評価については、単年ごとの評価だけでなく、過年度と比較し、そこから見える傾向や変化を捉え、それを業務に反映させてい</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 札幌市の業務財務検査に関しては、記録・帳簿等の適切な整備保管状況など概ね要求水準を達成したかなどについて、自己チェックを行なった。</li> </ul>	<p>を踏まえ、利用者目線に立った迅速な対応を心がけた。施設の使いやすさについても、鍵とともに貸室までの案内図や利用案内を渡すなど、可能な限り利便性向上のための取組を進めた。</p>	<p>くことが重要である。 これらの取組を根気強く継続し、より良い施設運営につなげていただきたい。</p>								
<p>(2) 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 財団諸規則の見直しや、ハラスメント相談窓口を設置するなどし、適正な労働環境の確保に努めている。また、法定労働時間を超えての労働については、36協定を労使で締結し、労働基準監督署に届け出た。</li> <li>▼ 札幌市ワーク・ライフ・バランスPlus取組企業認証を受けており、職員のハラスメント防止研修の実施、育児休業の取得促進など雇用環境の向上に努めた。</li> </ul>	<p>ハラスメント防止のために研修に参加するなど対応した。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> <p>・労働関係法令に合わせた諸規則の整備や、組織的な長時間労働の抑制等に向けた取組は評価できるが改善の余地はある。引き続き、労働関係法令遵守、雇用環境の向上のための取組を進めていただきたい。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>・労働関係法令に合わせた諸規則の整備や、組織的な長時間労働の抑制等に向けた取組は評価できるが改善の余地はある。引き続き、労働関係法令遵守、雇用環境の向上のための取組を進めていただきたい。</p>			
A	B	C	D								
<p>・労働関係法令に合わせた諸規則の整備や、組織的な長時間労働の抑制等に向けた取組は評価できるが改善の余地はある。引き続き、労働関係法令遵守、雇用環境の向上のための取組を進めていただきたい。</p>											
<p>(3) 施設・設備等の維持管理業務</p>	<p>▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 各関係法令に基づき、施設設備などを良好に維持した。長期的かつ安全な維持管理を行うため、故障や破損の早期発見、初期対応を速やかに行い、被害を最小限に留めた。経年劣化により早期の改修が必要となっている施設構造部分などについては、所管局と連携し、計画的に対応していくよう努めた。</li> <li>▼ 事件・事故が発生した場合は、適確に状況を判断し、常に利用者の安全を優先するよう職員の意識を統一した。</li> <li>▼ 緊急連絡網により、有事の連絡体制を確保した。</li> <li>▼ 損害保険等、必要な保険に加入し、万一の事故に備えた。</li> </ul> <p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 清掃業務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の不具合等については、早期発見と立入制限等来館者の安全確保のための初期対応を迅速に行った。</li> <li>・経年劣化の激しい消防設備・警報機器等についても、所管局と連携し、計画的に更新・修繕に取り組んだ。</li> <li>・貸室内の照明・空調や据付音響機器、ホール機器類等の整備についても、利用者の安全・快適な利用を優先して取り組んだ。</li> <li>・修繕対応シートを作成し、遅滞無く市教委へ確認できた。</li> </ul>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> <p>・施設の周辺環境の変化に伴い、センターにおける人の出入りは増加傾向にある。拾得物や不審者への対応など、施設管理担当職員の対応が増えている中でも、丁寧な対応と利用者の安定確保に継続して取り組んでいることは、非常に評価できる。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>・施設の周辺環境の変化に伴い、センターにおける人の出入りは増加傾向にある。拾得物や不審者への対応など、施設管理担当職員の対応が増えている中でも、丁寧な対応と利用者の安定確保に継続して取り組んでいることは、非常に評価できる。</p>			
A	B	C	D								
<p>・施設の周辺環境の変化に伴い、センターにおける人の出入りは増加傾向にある。拾得物や不審者への対応など、施設管理担当職員の対応が増えている中でも、丁寧な対応と利用者の安定確保に継続して取り組んでいることは、非常に評価できる。</p>											

清掃員を配置し、開館前及び開館中に巡回清掃することで、常に清潔な施設を維持した。ワックス塗布などの定期清掃も計画的に実施した。

・貸室の稼動状況に合わせ、効率よく清掃業務を遂行することで、施設利用者に快適な利用環境を提供することができた。

▼ 警備業務

警備業務実施要領に基づき、専門の警備員を配置し、防災防犯体制を整え、利用者の安全確保に努めた。

・周辺施設の利用を目的とした観光客の増に伴い、施設内の人の出入りがここ数年間、継続して増えてきている。施設の周辺環境の変化についても、警備員との情報共有を徹底することで、不審者対応などをスムーズに行うことができた。

▼ 施設維持管理業務

施設及び設備の機能が長年にわたって、正常に保たれる点検・保守に努め、故障が発生した場合は、速やかに復旧するよう努めた。

・開館から約19年が経過しており、施設の老朽化が顕在化してきていることから、利用者の安全確保の視点を欠かすことのないよう、定期的な打合せ等、委託業者との情報共有の体制を徹底的に維持し、長期的な視点に立った施設管理を行なうことができた。

・設備不良等があった場合に、迅速に報告がなされていることは評価できる。

なお、報告後の対応を正確かつ速やかに進めていくためには、図面や写真等による状況把握を欠かすことができないため、スピード感と併せて、報告方法の改善にも取り組んでいただきたい。

▼ 修繕

施設維持管理業務委託業者と連携をとり、修繕箇所が発生した場合には可能な限り利用者に影響が出ないよう速やかに初期対応をとるよう努めた。

・委託業者との連携を密にし、利用者への影響と優先順位を常に意識しながら、修繕を実施することができた。

施設・設備等の維持管理については、再委託先との連絡調整が必須となることから、引き続き、日常的な情報共有が疎かになることのないよう、取組を進めていただきたい。

▼ 備品管理

日頃から備品の点検・保守に努め、破損・故障等が発生した場合は速やかに復旧するよう努めた。

・開館時から使用している備品類も多々あることから、利用時の事故等に繋がらないよう、徹底して日常の保守点検に取り組むことができた。  
・貸室用イスやテーブルなど破損・汚損の激しいものについては、所管局へ更新依頼を行った。

▼ 駐車場管理

	<p>「生涯学習センター駐車場管理運営業務仕様書」に基づき、駐車場管理業者と協議を行いながら、適切な運営を行った。</p> <p>▼ 外溝緑地管理</p> <p>再委託業者に対し、随時適切な指導監督、点検確認を行い、美観の保持、利用者の安全を確保し、快適な緑地環境に努めた。</p> <p>▽ 防災</p> <p>▼ 利用者の安全を確保するため、防災計画に基づき、災害などの緊急事態に備えた体制作りを行った。また、Jアラート発動時の対応等についても職員に周知をし、緊急事態を想定して備えることができた。</p> <p>▼ 生涯学習総合センター内の4施設合同の防災訓練を定期的実施し、災害時に備えた。平成30年7月、平成30年11月、平成31年2月に消防訓練を実施した。</p> <p>▼ 震災時には、一時避難場所の設置のほかに、市民に対して復旧状況・再開館情報を提供をした。複合施設内他団体については、夜間緊急連絡網の整備・再確認を行い連携を強化した。</p>	<p>・駐車場の現行契約金額について、実際の業務内容と経費面などの詳細を吟味しながら協議するよう委託業者に働きかけている。</p> <p>・年間計画どおりに安全確保、美観の保持ができた。</p> <p>・緊急時には、ホームページを館内に居なくても情報更新できるように設定した。</p>	<p>・防災計画や複合施設内での防災訓練など、日常的な備えが、この度の地震発生時における迅速な対応につながったと考える。引き続き、利用者の安全確保に向けた取組に尽力いただきたい。</p>								
<p>(4)事業の計画・実施業務</p>	<p>▽ 生涯学習に関する学習機会の提供及び指導者等の人材育成に関する業務</p> <p>①さっぽろ市民カレッジ</p> <p>▼ 年3期(平成30年4～8月、9～12月、平成31年1～3月)に分け、市民活動系、産業・ビジネス系、文化・教養系の3つの系で幅広い年齢層に対応して実施した。 【実績】 受講者4,637名(計画4,500名)281講座実施</p> <p>▼ 【センター企画講座】 学んだ成果を生かして社会参加につなげる「楽しく歌ってボランティア」「読み聞かせボランティアをはじめよう」などを実施した。</p> <p>学んだ成果を活動に生かすことができるよう、複数の講座間でのつながりづくりを重視し、受講者が講座の中で終了後の活動のイメージを持つことができる工夫などを行った。継続的に学習できる講座として『社会に役立つ仕事カタログ』『心の病をもつ方と学ぶ「働くこと」「活動すること』』など、シリーズ化した講座を実施した。</p>	<p>・開講時間や会場を工夫したことで、これまで受講が難しかったビジネスパーソンにも学習機会を提供することができ、新規受講者の獲得につなげることができた。</p> <p>・分野を横断した新しいスタイルの講座など企画の幅を広げたことで、時代の変化に対応した講座を実施することができた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> <p>・「120講座以上の実施、受講者数3,000名以上」という要求水準を満たしている。 ・働いている人が受講しやすいよう開講時間や会場を工夫したこと、特に市民交流プラザにおいてビジネスファシリテーション体験などの講座を実施したことで効果的に新規受講者の取得につなげたことは評価できる。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>・「120講座以上の実施、受講者数3,000名以上」という要求水準を満たしている。 ・働いている人が受講しやすいよう開講時間や会場を工夫したこと、特に市民交流プラザにおいてビジネスファシリテーション体験などの講座を実施したことで効果的に新規受講者の取得につなげたことは評価できる。</p>			
A	B	C	D								
<p>・「120講座以上の実施、受講者数3,000名以上」という要求水準を満たしている。 ・働いている人が受講しやすいよう開講時間や会場を工夫したこと、特に市民交流プラザにおいてビジネスファシリテーション体験などの講座を実施したことで効果的に新規受講者の取得につなげたことは評価できる。</p>											

会社のCSR活動に視点をあてた「ビール工場の歴史とCSR活動を知ろう」、働いている人が受講しやすい環境を提供するため都心部に新たにオープンした市民交流プラザを会場にした「ビジネスファシリテーション体験」などの講座を実施した。

アートを科学の視点から見る「大人のための絵画鑑賞」や、音楽を数学の視点から見る「音楽のしくみ大解剖！」など分野横断的な講座や、ゆりかごコンサートと連動した子育て支援に関する講座「親子deあそぼ！」「親子deあそぼ！パパとあそぼ！」など、今日的な課題に対応した講座を実施するなどして、内容の充実を図った。

民間企業と連携し、それぞれの企業の特性を生かした「子どもラーメン道場」や「お母さんのためのヨーグルト教室」「牛のお話とバターづくり」を実施して、学習機会の提供を図るとともに、企業の社会貢献の支援を行った。

- ▼ 【ちえりあ学習ボランティア企画講座】  
講座やイベントの企画・運営を行う「ちえりあ学習ボランティア」がアート班、歴史班、社会・環境班、札幌学班、健康班の5つの班に分かれて、それぞれのテーマで16講座実施した。

- ▼ 【ご近所先生企画講座】  
「市民の学び合い」をコンセプトに、市民の学習成果の活用を図りながら、地域における新たな学習コミュニティづくりを進め、市内14ヶ所で、152講座実施した。

- ▼ 【学社融合講座】  
学校教育と社会教育が企画段階から連携(協働)し、市立札幌大通高校において、市民と生徒が共に学び合う講座を34講座実施した。講座を修了した生徒は、大通高校の卒業に必要な履修単位として認定された。

・民間企業と連携し、それぞれの企業の特性を生かした講座を実施したことで、講座内容の充実を図った。

・ご近所先生企画講座受講者のサークル化を促し、受講者の更なる学びへつなげるよう支援した。

・学社融合講座においては、高校生などへのアンケート結果を踏まえ、プログラム等を工夫したことにより、受講者数を大幅に増やすことができた。また、市民と高校生の学び合いによる世代間交流・異年齢学習を進め、お互いに学習意欲を高め合うなど良い成果があった。

・引き続き企業の特色を活かしたプログラムづくりと多様な企業連携に努めていただきたい。

・市民が学んだ成果を生かし講座を開き、そこで地域の住民が学ぶことで、学び合いの場を創出し、地域における学習機会の提供となっており、評価できる。

・アンケート結果をプログラム等の工夫に生かし、受講者のニーズに即した講座の充実を図ったことで、受講者増につながった点は評価できる。

・引き続き、より魅力的な講座企画に努めていただくことで、市民にとっても高校生にとっても、一層実りのある交流・学習の場となるよう期待したい。

## ②学習支援者活用推進事業

- ▼ さっぽろ市民カレッジ受講修了者が講師となる講座を設けるなど、様々な形で学んだ成果の活用を促進した。

## ア 市民講師育成(ご近所先生)

ご近所先生企画講座を開こうとする市民を対象に、講師としての資質向上やスキルアップを図るため、研修会と交流会を内容の充実を図りながら実施した。また、地域での活動を支援するため、「ちえりあ市民講師バンク」への登録を促し、各種事業での活動の場を紹介した。

【実績】研修会4回136名 交流会1回26名

## イ メディアボランティア・オンデマンド

16ミリ映写機の映写技術を継承し、市民の学習活動や地域活動で16ミリフィルムを利用できるようにするための「16ミリフィルム上映体験講習会」を実施し、講師役となる「オンデマンド」の活動を支援した。

【実績】「オンデマンド」登録者数4名

7/29(日)16ミリフィルム上映体験講習会 受講者数親子3組7名

11/25(日)16ミリフィルム上映体験講習会 受講者2名

## ウ 市民ファシリテーター

市民ファシリテーター養成講座の受講修了者を対象に、同講座の企画から運営までをサポートしてもらうことで、講座内容の充実を図るとともに、自身の学びを深めてもらう機会を提供した。

【実績】登録者4名

## エ ちえりあビデオクルー

センター事業や他団体による地域の活動・行事などのビデオ撮影・編集を依頼した。映像作品をYouTubeに公開したり、主催者に提出することで、地域の活動のPRに活かしている。

【実績】登録者20名

・交流会は胆振東部地震の影響を受けて案内が遅れたこともあり参加者が減少したが、交流会後の懇親会の運営を今回初めて「ご近所先生の会」に担ってもらったなど、交流の活性化に向けた新たな取組を行った。

・市民一人ひとりの知識や経験を生かす「学びと実践のサイクル」が進み、学びを通じた市民の社会参加を促進することができた。

・学習支援者が積極的に講座の計画や振り返りについて話し合いに取り組み、講師・担当者それぞれの意見を講座へ反映することにより、講座内容の充実を図ることができた。また、学習支援者が講座の企画から運営まで関わることで、自身の学びを深めることができた。

・地域の行事やイベントなどのほか、ロビーコンサートやゆりかごコンサートの撮影・編集を行い映像作品を公開することで、学習成果を生かす場を提供することができた。

・学習支援者活用推進事業によって、生涯学習事業における市民参加の促進及び、学んだ成果の活用が図られている。

・特に市民講師育成(ご近所先生)においては、研修や面談による育成プログラムを実施するとともに、ご近所先生による運営で交流会による講師同士の学び合いの要素を取り入れており、交流機会の場としても評価できる。

・なお、市民講師育成について、育成した講師が将来的には生涯学習センターを介さずとも地域で活躍できるスキームづくりが必要不可欠である。

また、ボランティアに関しても、担い手不足など、今後の活動の方向性について課題が残されている団体もある。そのため、ボランティアの方々の自主性を尊重しつつも、活動の継続性と、活動の範囲について十分に検討を進めていく必要がある。

中核施設として、地域全体にかかして事業効果を波及させていくか検討を続けていきたい。

## オ コーラスボランティア

「楽しく歌ってボランティア」講座修了者で結成されたグループに同講座の運営補助を務めてもらった。また、施設慰問コンサートを実施した。  
【実績】登録者「コスモス」4名、  
「プリティボイス」22名、計26名

・コーラスボランティアから発足し、現在は自立して活動している団体が、長年にわたる施設慰問コンサートなどの社会貢献活動が評価されて平成30年10月に第42回北海道新聞ボランティア奨励賞を受賞するなど、学んだ成果を地域で生かす市民を育成することができた。

## カ カメラボランティア

カメラボランティア養成講座の受講修了者を対象に、同講座の企画から運営までをサポートしてもらうことで、講座内容の充実を図るとともに、自身の学びを深めてもらう機会を提供した。また、講座修了生のサークルに対して、撮影の場を提供することで、技術の向上に努めてもらった。

【実績】登録者「ハピネス」3名  
「you快」4名  
「トトレレ」10名 計17名

・学習支援者に講座のサポートをしてもらうことで、講座内容の充実を図ることができたとともに、学習支援者にとっても良い学び合いの機会を提供することができた。

## ③生涯学習関連施設職員研修事業

- ▼ 区民センター、地区センターなど生涯学習活動支援を担う施設職員の資質向上を図るため、接客術をテーマに研修を行った。合わせて、講座企画等の学習相談窓口を設置し、企画にあった講師の紹介などを行なった。  
【実績】25施設58名

事前アンケートで共通の悩みを抱えていることが分かったことから、グループワークを多めに取り入れ、情報交換の場としての役割も果たした。公共施設の利用が多い高齢者への対応も盛り込んだことで、実情に合わせた研修を行うことができた。

・生涯学習活動支援の関係職員の研修実施に際し、事前アンケートを実施し、参加者のニーズを把握して研修に生かした点は評価できる。

・地域の生涯学習を推進していくためには、生涯学習センターのみならず、コミュニティ施設等における地域の生涯学習関連施設の取組の充実が欠かすことができない。その一助として、この研修事業は資質向上とネットワークづくりという重要な役割を持っている。

実施回数や実施内容、参加団体について、地域全体の生涯学習の促進という大きなビジョンをもって、毎年度の取組を進めていただきたい。

## ④生涯学習ボランティア育成事業

- ▼ さっぽろ市民カレッジ講座の企画・運営などを行う「ちえりあ学習ボランティア」に、活動の場と知識やノウハウを実践的に学ぶ機会を提供した。【実績】「ちえりあ学習ボランティア」登録者49名

・ボランティア内での新規サークルが1つ増え、班や委員会を超えたメンバー間でのコミュニケーションを図ることができた。

・ボランティアに講座の企画・運営という活動の場を提供しており、市民の社会参加の場として評価できる。

## ⑤インターンシップの受入れ

- ▼ 職場体験の実習生を受け入れ、市民カレッジの企画・立案・運営などを体験する場を提供した。

手稲東中学校 4名、札幌市立豊明高等支援学校1名、札幌市立大学1名、札幌英藍高等学校6名、札幌琴似工業高校6名、稲積中学校3名

・高等教育機関等と連携し、学生の就業観や就労意欲を高めることができた。

・学生への指導を通して担当職員のスキル向上につなげることができた。

・こうした取組については、左記の効果のほか、将来の生涯学習の担い手づくりにもつながる可能性のある取組である。生涯学習センターで活躍しているボランティアの方々との交流機会など、多世代交流の機会として、学生の発想を施設運営に反映させる仕組みづくりなど、取組の工夫を重ねていただきたい。

## ▽ 生涯学習に関する調査、研究、企画立案及び啓発に関すること。

- ▼ 札幌市図書館との連携講座5講座(うちご近所先生企画講座3講座、職員企画講座2講座)において、受講者を対象としたアンケートや図書館職員への聞き取りを行った。また、全国の先行事例の情報収集を行い、報告書『生涯学習センターと図書館が連携して行う学習機会提供事業のより良いあり方について』にまとめた。

・第3次札幌市生涯学習推進構想の「身近な地域で学びを深められる環境の整備」に向けて、図書館と当センターが連携して行う講座のより良いあり方について、先進事例を踏まえて現状や課題等を整理することができた。

・今回の調査研究の成果を踏まえ、第3次札幌市生涯学習推進構想の施策の実現に向けた図書館と生涯学習センターの連携による取組につながることを期待したい。

▽ 生涯学習に関する情報の収集及び提供並びに相談に関すること。

①メディアプラザ運営業務

▼ ア メディアプラザ運営事業

広く学習相談に応じるとともに、生涯学習に関する資料の収集と貸出や資料紹介などのレファレンスサービスを通じて、学習活動の支援を行った。

【実績】来場者数：200,239名（前年度：224,371名）

利用者数：72,044名（前年度：71,400名）

(a) 図書閲覧・貸出

利用者の幅広い調べ学習を支援するため、蔵書約2万5千冊を閲覧及び貸出しに供すると共に、市内の他の図書館・図書室との相互の取り次ぎサービスに対応した。また、図書を活用した生涯学習に取り組むきっかけを作るため、レファレンス業務を行うなど、所蔵資料や職員の専門性を活かした事業を展開した。

【実績】図書・CD貸出数：73,906冊

(b) 音楽・語学教材・映像の視聴

クラシックを中心とした音楽資料のほか、映像資料、語学教材など約3万点の資料の提供を行った。音楽CDは、館内で鑑賞できるほか館外貸出しにも供する。特集展示やイベントも実施して各種資料の周知と利用促進を図った。

【実績】利用件数

<館内貸出> 音楽教材：899件（前年度：1,399件）

映像教材：3,953件（前年度：3,906件）

語学：0件（前年度：4件）

<館外貸出> 【再掲】図書・CD貸出数：73,906冊

(c) Chie Terrace事業

ブックカフェスタイルに改修した生涯学習支援スペース「(愛称)Chie Terrace(ちえテラス)」で、メディアプラザ司書やボランティアによる絵本の読み聞かせや、市民カレッジの無料講座カレッジサロン、またオープン2周年記念の音楽コンサートや落語会などを行った。市民が生涯にわたって学び続けることができるように、多種多様な学習環境をつくり、より効果的な活用・交流ができる場を提供している。

【実績】読み聞かせ：16回 参加者：455名

コンサート：2回 参加者：40名

落語会：1回 参加者：10名

カレッジサロ：4回 参加者：31名

開館時間が2時間短縮されたが、資料を単に配架するだけでなく、特集を組み展示方法を工夫するなどしたことにより、利用者数は前年を上回ることができた。ちえテラスでの雑誌配・架等の効果により、図書及びCDの予約件数並びに予約回送件数は29年度を上回ることができた。

・CD、DVD、LPなどの音楽・視聴覚教材レファレンスや講座と関連する図書のレファレンスに努めた。

・資料を単に閲覧できるように配架するだけでなく、特集を組み展示方法を工夫することで貸出数が増え、利用者からも好評を得た。

・市民が生涯にわたって学び続けることを支援できるように、新たな学習環境を創出することができた。

・生涯学習に関連する事業をより一層普及啓発できる「空間＝場」として活用し、多くの市民から好評を得ることができた。

・今後も配架の工夫や特集を組むなど市民の学習活動の支援に取り組んでいただきたい。

・ちえテラスでは、市民交流プラザと連携した取組や利用者ニーズを意識した講座の実施を行っており、評価できる。

イ 学習相談、サークル・講師の紹介  
メディアプラザでの学習相談をはじめ、生涯学習に関する相談に幅広く対応するとともに、「ちえりあ市民講師バンク」に登録している講師や、サークル活動の内容を紹介するなど、市民の学習活動に役立つ情報を提供した。あわせて、「ちえりあサークル」に登録している団体の情報をまとめた「サークルガイド」を配布した。「ご近所先生企画講座」の講師が、随時市民講師バンクに登録することで、講師数は飛躍的に増加した。また、生涯学習関連施設職員研修ブースを設けPRしたところ、利用相談が相次いだ。講師バンクのPRチラシも、利用相談に重点をおいた内容から、講師登録に関する内容を充実させたものに一新して配布したところ、相談件数が増加した。

【実績】メディアプラザ学習相談件数：2,871件  
ちえりあ市民講師バンク登録者数：295名  
サークル登録件数：172件

【実績】センター全体での学習相談件数：16,240件

- (1) 講座内容等の問い合わせ件数：188件
- (2) 施設の紹介・登録件数：716件
- (3) サークルの紹介件数：104件
- (4) レファレンス(図書・視聴覚)件数：565件
- (5) その他(他施設の案内など)：720件
- (6) メディアプラザ以外での学習相談：13,369件

## ②生涯学習情報誌の発行

- ▼ 行政機関、高等教育機関、カルチャーセンター、NPOなど、市民向けの学習機会を提供している施設の特徴や主な開催講座等の情報を掲載する冊子「さっぽろ生涯学習情報 大人の学び場MAP」を発行し、市内の公共施設等で配布した。市内の生涯学習施設からの掲載依頼が増加したため、ページ数を増やし、対応した。また、地下歩行空間で配布会も行い、普段生涯学習関連施設を訪れない市民にも冊子を手に取ってもらう機会を設けた。  
【実績】2回発行(8月、2月)各6,000部

## ③子どもの学びガイドの発行

- ▼ 小学校の夏休み前と冬休み前に市内公共施設で開かれる子ども向け事業を紹介する案内チラシ「子どもの学びガイド」を制作し、市立小学校の全児童に配布して、児童と保護者に情報提供を行った。  
【実績】4回発行 各93,000部

・講師バンクPRチラシを一新したことや広報活動に積極的に取り組んだことなどにより、今年度は学習相談件数及び市民講師バンクへの講師登録数や講師と講座開講のマッチング件数を増やすことができた。

・市民講師バンクについては、市民の学習成果の活用と、自主的な学習活動を支える重要な仕組みである。

案内チラシの一新や、生涯学習関連施設職員研修でのPR活動といった広報活動への注力は評価できる。

しかしながら、講師情報の発信や取組の評価の方法、マッチング件数の確認手法など、利用者の目線に立った事業改善が必要不可欠であると指摘せざるを得ない。

引き続き、生涯学習関連施設の職員等、利用の想定される団体へのヒアリングなど、利用しやすい仕組みづくりを優先的に進めていただきたい。

・官民間わず、広く市内の生涯学習講座情報を掲載した冊子を、計画どおり、年2回各6,000部発行することができた。  
・掲載を希望する施設が昨年度を大きく上回ったことから、ページ数を増やすなどの対応をとるとともに、内容の充実を図った。

・幅広い層の方々に手に取ってもらえる工夫の継続を評価したい。

引き続き、生涯学習の中核施設として、市内で行われている多様な生涯学習情報を収集し、市民が活用しやすい形で提供する方法を模索していただきたい。

・小学生向けの生涯学習に関する情報収集及び提供を積極的に行い、学校休業日における児童の自主的な学習を支援することができた。

④ホームページの活用

- ▼ 講座やイベントなどの情報提供のほか、ちえりあビデオクルーが撮影した動画を配信するなどして、センターの事業を紹介した。利用者からの質問や意見に対する回答を公開した。

【実績】ホームページアクセス数：1,002,087件  
 メールマガジン配信回数：12回  
 メールマガジン登録者数：2,926名

・Webアクセシビリティを意識しながら更新・管理を行った。  
 ・Webアクセシビリティ自己評価を行った。  
 ・Webアクセシビリティ試験を行い、AA準拠レベルを維持した。

・公の施設として、Webアクセシビリティの確保は必要不可欠である。こうした取組と併せて、貸室について利用用途や室内写真を詳細に掲載したり、実施事業の結果や講座受講者の感想等を掲載するなど、市民が利用イメージをつかむことのできるよう掲載内容を充実していく必要がある。今後HPによる情報提供はより一層重要性を増すことから、利用者目線での改善を継続していただきたい。

⑤生涯学習センター広報誌の発行

- ▼ 生涯学習センター主催事業や講座及び施設の情報などを提供する広報誌「ら・ちえりあって」を発行し、公共施設などに配布した。また、地下歩行空間で広報誌の配布イベントを実施することで多くの方に入手してもらい機会を増やした。
- 【実績】6回発行 各回12,000部

・さっぽろ市民カレッジをはじめとする当センターの情報を、多くの市民にタイムリーかつ分かりやすく提供することができた。

・本広報誌は、見やすく内容も充実している。配付イベントなどで、多くの市民が手にする広報紙でもあるため、今後も市民目線で内容の伝わりやすさを意識するとともに、学習意欲の喚起につながる広報誌作りに努めていただきたい。

▽ 生涯学習に関する事業を行う団体との連携及び交流の支援に関すること。

①連携講座の実施

- ▼ さっぽろ市民カレッジにおいて、社会のニーズに応じた専門的かつ高度な知識経験を有する機関と連携した。

【実績】札幌市立大学(4講座実施)  
北海学園大学(1講座実施)  
北海道教育大学(4講座実施)ほか

・大学と連携して互いの特性を生かした講座を実施したことで、内容の充実を図ることができた。また、学びを通じた世代間交流・異年齢学習の推進を図ることができた。

・今後も大学だけではなく、様々な関係機関と連携して講座を実施し、学びの成果を更なる事業展開につながるよう取り組んでいただきたい。

②市立札幌大通高校との学社融合講座の実施

- ▼ さっぽろ市民カレッジの一部講座を校舎内で実施し、市民と高校生が共に学ぶ新たな学びの場を創出した。

- ▼ ご近所先生企画講座で育成した人材を積極的に活用した。

【実績】開講数20講座

・学社融合講座では、現地学習や実習等を通して、高校生と一般市民の学びの交流を一層深めることができた。

なお、連携事業をとおして培ったネットワークを地域に還元していくためには生涯学習センターが「仲介役」としての役割を果たすための相談機能の充実が求められている。その点を意識した相談体制の在り方について検討を進めていただきたい。

③各区との連携事業の実施

- ▼ センターのノウハウやネットワークを生かし、区役所等と連携してまちづくりの推進に寄与する事業を実施した。

- ア 東区役所から委託され、高齢者対象の「東区年輪大学」を全16回のカリキュラムで実施した。ご近所先生を講師として活用するなど、市民による学び合いを推進した。

【実績】16回39名

・行政機関と連携し、センターの持つ企画ノウハウや貸室を生かした事業を行い、まちづくり活動に参加するきっかけづくりをはじめとした学習機会を提供することができた。

・今後も市民にとって身近な施設での事業の展開が求められているため、区役所等と連携したまちづくり推進に寄与する取組の充実を図っていただきたい。

- イ 中央図書館主催の「さっぽろ家庭読書フォーラム」を共催し、小中高生の読書推進活動の紹介や、絵本作家による講演を実施した。

【実績】1回78名

・絵本作家の講演等を通じ、読書による生涯学習の楽しさを伝えることができた。

④民間企業との連携講座の実施

- ▼ 雪印メグミルク(株)北海道統括支店、東洋水産(株)、アサヒビール(株)、(株)明治、JFE条鋼(株)豊平製造所と連携し、それぞれの企業の特性を生かした講座を実施し、企業の社会貢献活動に協力した。

【実績】7回118名

・民間企業と連携し、それぞれの企業の特性を生かした講座を実施したことで、講座内容の充実を図ることができた。また、企業の社会貢献活動の支援を行うことができた。

・民間企業と連携し、講座内容を充実させるとともに、企業の社会貢献の支援となったことは評価できる。引き続き、企業の特性を生かした講座の実施に取り組んでいただきたい。

▽ 生涯学習に関する市民の自主活動及び交流の支援業務

①ちえりあフェスティバル

▼ ちえりあの開館(平成12年8月)を記念し、館内の4施設(生涯学習センター、宮の沢若者活動センター、教育センター、リサイクルプラザ宮の沢)が共同で気軽に生涯学習活動に触れることができる多数のイベントを行い、幅広い年代層の市民に対して生涯学習の普及啓発を図った。

▼ 講座体験や最新科学体験などセンターが有する事業のノウハウを生かしたイベントや、来場機会の少ない若年層の来場を促すための移動動物園、高齢者が楽しめる北大落研口演など、あらゆる世代を網羅したイベントなどを多数実施した。

【実績】12,080名(1日間)

②サークル発表会

▼ ちえりあや市内各施設を拠点に活動している団体に学習成果を披露する場を提供することにより、活動意欲の向上及び活動の活性化を図るとともに、市民のサークル活動への興味・関心を高めることができた。

【実績】

(展示部門) 参加17団体(7日間)

(舞台部門) 参加67団体、  
観覧者2,110名(3日間)

▽ 学習成果の発表及び鑑賞の支援に関すること。

①ちえりあフェスティバル(再掲)

▼ ちえりあの開館(平成12年8月)を記念し、館内の4施設(生涯学習センター、宮の沢若者活動センター、教育センター、リサイクルプラザ宮の沢)が共同で気軽に生涯学習活動に触れることができる多数のイベントを行い、幅広い年代層の市民に対して生涯学習の普及啓発を図った。講座体験や最新科学体験などセンターが有する事業のノウハウを生かしたイベントや、来場機会の少ない若年層の来場を促すための移動動物園、高齢者が楽しめる北大落研口演など、あらゆる世代を網羅したイベントなどを多数実施した。

【実績】12,080名(1日間)

・ちえりあ学習ボランティア主催のイベントやご近所先生講師によるミニ講座など市民が参画する催しを多く行うことで、センター事業の普及啓発を図ることができた。

・学習成果の発表の場として、サークル参加者の活動意欲の向上を図るとともに、市民への鑑賞の場を設けることで、サークル活動や学習活動に対する興味・関心を高め、生涯学習に携わるきっかけづくりに繋げることができた。

・ちえりあ学習ボランティア主催のイベントやご近所先生講師によるミニ講座など市民が参画する催しを多く行うことで、センター事業の普及啓発を図ることができた。

・集客力があり、生涯学習の普及啓発及び交流の機会として非常に評価できる。高等教育機関による地域貢献事業や企業のCSR活動の場としての機能強化を図るなど、更なる事業の充実を期待したい。

・学習成果の発表の場として、参加者の活動意欲向上を図るとともに市民が鑑賞することにより、学習活動への興味・関心を高める場になっていることは評価できる。引き続き学習成果の発表の場や市民が生涯学習に携わるきっかけづくりの場となるよう取り組んでいきたい。

・学習成果の発表機会を設けることは、生涯学習事業を行う上で重要な取組であることから、今後も市民の学んだ成果を発表し、共有できる場として、事業が展開されていくことを期待する。

## ②サークル発表会(再掲)

- ▼ ちえりあや市内各施設を拠点に活動している団体に学習成果を披露する場を提供することにより、活動意欲の向上及び活動の活性化を図るとともに、市民のサークル活動への興味・関心を高めることができた。

## 【実績】

(展示部門) 参加17団体(7日間)

(舞台部門) 参加67団体、  
観覧者2,110名(3日間)

・学習成果の発表の場として、サークル参加者の活動意欲の向上を図るとともに、市民への鑑賞の場を設けることで、サークル活動や学習活動に対する興味・関心を高め、生涯学習に携わるきっかけづくりに繋げることができた。

・学習成果の発表機会を設けることは、生涯学習事業を行う上で重要な取組であることから、今後も市民の学んだ成果を発表し、共有できる場として、事業が展開されていくことを期待する。

## ③ちえりあロビーコンサート

- ▼ 市内や近郊で音楽活動に取り組んでいる個人、団体から出演者を公募し、音楽活動の発表の場を提供するとともに、市民に演奏を気軽に聴いてもらう機会を提供した。

【実績】参加8団体 観覧者905名

・毎回100名ほどの来場者があり、市民の音楽鑑賞の場として定着させることができた。  
・見ても楽しいパフォーマンスの演出要素も加わったことで、来場者から好評を得ている。

・学習成果の発表機会の提供と、ロビーのにぎわいづくりを結びつけた取組であり、その継続性も含めて評価したい。

## ▽生涯学習センターの施設の使用に供すること。

## ①貸室事業

- ▼ 市民の学習活動の場として、ちえりあホール及び各種研修室を提供した(有料)。申し込み時の利用者の利便性を高めるため、インターネットでの仮予約システムを導入した。また、貸室物件の利用途中での申し込みについて手続きを簡素化し、利便性を図った。

・申請書に変更取消期限日を記載するよう改修したほか、ホール物件料金対応をデジタル化するなど、利用者の利便性向上を図った。  
・鍵とともに貸室までの案内図や利用案内を渡すなど、分かりやすく貸室運営した。

・細やかなサービス改善の積み重ねが後段の満足度にも表れており、取組を評価したい。  
引き続き、利用者サービスの上に向けて、取組の見直しを積み重ねていただきたい。

## ②施設の有効活用

- ▼ ギャラリー及びアートウォールを市民の学習成果の発表の場として提供した。

・立体的な作品も展示できることから、毎年使用する団体や、年に複数回使用する団体もあり、好評を得ている。施設内の賑わいにも繋がっている。

▽ その他生涯学習センターの設置目的を達成するために必要な事業

①カルチャーナイト

- ▼ 夜間に公共施設などを開放し、文化活動の発信を通じて、市民の地域文化への関心を高めるとともに、新しい地域文化の創造と発展を図る「カルチャーナイト」に参加し、市立札幌開成中等教育学校生と連携し「遊んで学ぼう！ コーヒーフィルターで作るパラシュートの秘密」、1階ロビーでは、子ども向けイベントとして「昔遊び」を開催した。  
【実績】115名

・ロビーで開催することにより、他のイベントで来ていた来場者の参加を促すことができた。  
・「遊んで学ぼう！ コーヒーフィルターで作るパラシュートの秘密」では、市立札幌開成中等教育学校生が参加者への指導を行い、異世代交流も図ることができた。

・音楽や芸術といった、幅広い市民が気軽に楽しめる多様な取組が行われており、施設のPRや新たな利用者の獲得につながっている。  
また、幅広い世代が、生涯学習に関心を持つきっかけとして寄与していると評価できる。

②ちえりあオペラシアター

- ▼ 生涯学習センター所蔵のDVDを活用し、上映と専門家の解説を組み合わせた講座を実施し、世界一流のオペラを鑑賞するとともに、オペラに関する幅広い知識を学ぶ機会を提供した。  
【実績】8回919名

・講座当日に次回の申し込みを会場で受け付けることで、リピーターを安定的に確保できた。  
・リピーターが増えたこともあって毎回100名ほどの受講者があり、オペラの普及振興に寄与することができた。  
・著作権法の改正により有料での開催が不可となった。

③ちえりあ映画会

- ▼ 映画に親しむ機会を提供するため、生涯学習センター等が所蔵する多様な映像教材をちえりあホールで上映した。邦画では、ボランティア団体の「ムービー北海道」の協力を得て、目の不自由な人も鑑賞できるよう副音声ガイドサービスを実施した。  
また学校の長期休業期間には、親子で楽しめる作品を上映した。

【実績】12回3,177名(前年度 30回4,153名)  
大人向け:8回「チップス先生さようなら」ほか  
子ども向け:4回「うごく絵本チルビー」ほか

・センターが所有する資料を市民に広く紹介するとともに、ホール機能を有効に活用できた。  
・映画鑑賞による生涯学習意欲の喚起に加え、各作品の上映前に教育的要素のある視聴覚教材を上映することで市民へ様々な情報を発信し、生涯学習の普及啓発を図ることができた。

・誰もが参加できる学びの環境づくりは必要不可欠であり、そうした配慮を進める姿勢を評価したい。  
引き続き、誰にとっても利用しやすい施設づくりを進めていただきたい。

## ④ちえりあCDコンサート

- ▼ 生涯学習センター所蔵の音響機器と視聴覚資料を活用し、良質な音響環境で名演奏に親しむ場を提供するとともに、メディアプラザの貸出しCDの利用促進を図った。  
【実績】12回469名(前年度 30回436名)  
「津軽三味線 高橋竹山のすべて」「NORTH BIRD/寺久保エレナ」ほか

・分かりやすい中でも専門性を持たせた資料を配布したほか、クラシック以外のジャンル(ジャズや三味線など)を取り上げたことにより、新たな参加者層を獲得でき、入場者増につなげることができた。  
・これまで実施したCDコンサートを紹介する特集棚をメディアプラザに設けることで、この特集棚のCDが頻繁に貸出しされ、利用増につなげることができた。

## ⑤ゆりかごコンサート

- ▼ 子育て中の親とその子どもに気軽に音楽を楽しんでもらえるよう、乳幼児の声や動きを気にせずに鑑賞できるコンサートを開催した。  
【実績】1公演110組220名  
出演: ジョニー黒田とディキシープリンス

・リピーターが多く、アンケートの満足度も高いことから、乳幼児連れの親たちが気兼ねなく参加し、親子で音楽に楽しむことができる場を提供するための事業として定着してきている。

## ⑥北海道吹奏楽フェスティバル

- ▼ 若手プロ奏者たちによる演奏会に合わせて、小・中学校、高校、大学の吹奏楽部に公開レッスンをを行うレクチャーコンサートを開催し、吹奏楽活動の支援と普及を図った。  
【実績】3公演940名

・参加団体が、小・中学校、高校、大学と幅広く、新規の参加団体も増えたことから、新たな交流を図ることができた。  
・サポートした団体がコンクール上位に入賞するなどの成果が出ている。  
・ちえりあホールの使いやすさや音響の良さの評判が広がり、吹奏楽団体の使用が増えたことから、貸室事業の実績にもつながっている。

<p>(5)施設利用に関する業務</p>	<p>▽ 利用件数等 別添のとおり</p> <p>▽ 取消し 185件、 減免 1,498件、 還付 274件</p> <p>▽ 利用促進の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 丁寧な対応で、できる限り利用者のニーズに沿うよう貸室提案をした。</li> <li>▼ 前年度に引き続き貸室利用率が80%を超えた。</li> </ul>	<p>・Web仮予約システムを活用し、受付を円滑にすることができた。</p> <p>・利用者への配布物に鍵だけではなく案内図や注意事項を一緒に渡したり、物件利用を利用途中でも簡便に手続きできるようにシステム改修したりするなど、市民がより利用しやすくなる施設運営を行った。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> <p>・生涯学習センターでは、H30年度は貸室利用率80.4%を目標値としていたところ、81.7%となり、目標を達成した。</p> <p>引き続き、利用者の声に耳を傾けながら、利用者サービスの向上に取り組んでいただきたい。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>・生涯学習センターでは、H30年度は貸室利用率80.4%を目標値としていたところ、81.7%となり、目標を達成した。</p> <p>引き続き、利用者の声に耳を傾けながら、利用者サービスの向上に取り組んでいただきたい。</p>			
A	B	C	D								
<p>・生涯学習センターでは、H30年度は貸室利用率80.4%を目標値としていたところ、81.7%となり、目標を達成した。</p> <p>引き続き、利用者の声に耳を傾けながら、利用者サービスの向上に取り組んでいただきたい。</p>											
<p>(6)付随業務</p>	<p>▽ 広報業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 広報誌の発行(再掲) 生涯学習センター主催事業や講座及び施設の情報などを提供する広報誌「ら・ちえりあって」を発行し、公共施設などに配布した。また、地下歩行空間で広報誌の配布イベントを実施することで多くの方に入手してもらう機会を増やした。 【実績】6回発行 各回12,000部</li> <li>▼ ホームページの活用 講座やイベントなどの情報提供のほか、ちえりあビデオクルーが撮影した動画を配信するなどして、センターの事業を紹介した。利用者からの質問や意見に対する回答を公開した  【実績】ホームページアクセス数: 11,002,087件 メールマガジン配信回数: 12回 メールマガジン登録者数: 2,926名</li> </ul> <p>▽ 引継ぎ業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 各事業の資料(起案、報告書)等を必要年数保管し、後続の担当者が円滑に業務を引き継げるようにした。</li> </ul>	<p>・Webアクセシビリティを意識しながら更新・管理を行った。</p> <p>・Webアクセシビリティ自己評価を行った。</p> <p>・Webアクセシビリティ試験を行い、AA準拠レベルを維持した。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> <p>・公の施設がその設置目的を果たすためには、市民への適切な情報提供が必要不可欠である。</p> <p>HPについては、掲載内容をはじめ、改善の余地が残されていることから、引き続き、利用者の立場にたって内容の見直しに取り組んでいただきたい。</p> <p>・業務の継続性の確保のためには欠かすことができない取組であるため、適切な引継ぎにより、遺漏のない事務執行に努めていただきたい。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>・公の施設がその設置目的を果たすためには、市民への適切な情報提供が必要不可欠である。</p> <p>HPについては、掲載内容をはじめ、改善の余地が残されていることから、引き続き、利用者の立場にたって内容の見直しに取り組んでいただきたい。</p> <p>・業務の継続性の確保のためには欠かすことができない取組であるため、適切な引継ぎにより、遺漏のない事務執行に努めていただきたい。</p>			
A	B	C	D								
<p>・公の施設がその設置目的を果たすためには、市民への適切な情報提供が必要不可欠である。</p> <p>HPについては、掲載内容をはじめ、改善の余地が残されていることから、引き続き、利用者の立場にたって内容の見直しに取り組んでいただきたい。</p> <p>・業務の継続性の確保のためには欠かすことができない取組であるため、適切な引継ぎにより、遺漏のない事務執行に努めていただきたい。</p>											

2 自主事業その他					
▽ 自主事業		A B C D			
		<p>① 東区年輪大学(再掲)</p> <p>▼ 東区役所から委託され、高齢者対象の「東区年輪大学」を全16回のカリキュラムで実施した。ご近所先生を講師として活用するなど、市民による学び合いを推進した。 【実績】16回39名</p> <p>▽ 収益事業</p> <p>① レストラン事業</p> <p>▼ ちえテラスに隣接したスペースにおいてカフェ事業を運営し、来館者へ飲食等を提供した。</p> <p>② 自動販売機事業</p> <p>▼ 売上高4,778千円(計画 4,500千円)</p> <p>▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等</p> <p>▼ 委託業務、物品の購入などは、市内の企業に発注を心がけた。</p> <p>▼ 障害者雇用(平成30年度 1名)</p>	<p>・サークル活動の後に打合せや調べ物をするなど幅広い用途で利用されており、来館者の生涯学習活動に対する補完的な空間づくりやリラックスできる居場所づくりをすることができた。</p> <p>・カフェ運営に伴い減収を見込んでいたが、周辺施設への観光客を含め来館者が増加したことで、計画を上回る売上手数料収入につなげることができた。</p> <p>・委託、物品の発注等は、市内企業を積極的に活用することができた。</p>	<p>・利用者の利便性向上に資する取組として評価したい。</p> <p>自主事業については、サービスの向上と収益性の両面を見据えた事業展開を期待したい。</p>	

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果			A	B	C	D
実施方法	メディアプラザ利用者、貸室利用者、講座受講者、期間中の主催事業参加者を対象に記述式のアンケートを実施。 (期間:平成31年2月1日～3月7日) 当初、2月28日までの予定であったが、アンケートの総数が500枚に満たなかったため、3/7まで延長した。	<p>・職員の待遇及び総合的満足度について指定管理業務の仕様書に記載のある要求水準を上回ることができた。</p>	<p>・総合満足度について、要求水準である80%を達成している。 アンケートについては、貸室利用者、講座受講者のみならず、その他事業参加者からも偏りなく協力いただけたよう工夫していただきたい。</p>			
結果概要	メディアプラザ及びセンター事務室において、アンケートに寄せられた意見及びそれに対する回答を掲示することとする。  ●職員の接遇 大変良かった 36.6%、まあ良かった 30.1%、普通 32.9%、あまり良くなかった 0.4%、悪かった0% ●総合満足度 とても満足 24.1%、満足 74.1% 少し不満 1.6%、不満 0.2%					
利用者からの意見・要望とその対応	【意見】・開放部屋の開放時間が遅れている時があった。  【対応】 職員に周知し、開放の時間を忘れないように心掛けた。 その他の意見に対しては、館内やHPで回答を行う。					

4 収支状況

▽ 収支 (千円)					A	B	C	D
項目	H30計画	H30決算	差(決算-計画)	<p>・2018年9月6日に発生した胆振東部地震により、中止となった講座や休館による貸室利用の停止により、受講料収入、施設利用料収入、及び貸室利用率が減少した。</p> <p>・光熱水費は来館者に配慮しつつ可能な限り節制に努めたが、原油価格高騰等の影響で支出金額が計画値を大きく上回った。また、業務の効率化・合理化など事務・事業の見直しを進め、消耗品費・印刷製本費等の経費削減を図った。</p>	<p>・収支は赤字となったものの、計画値よりも決算値は改善しており、事業実施方法の見直しや、各種節約の成果と言える。 引き続き、業務の効率化・合理化を中心とした収支改善に向けた取組を継続していただきたい。</p>			
収入	473,106	466,320	▲ 6,786					
指定管理業務収入	452,035	444,325	▲ 7,710					
指定管理費	344,700	345,027	327					
利用料金	87,570	82,510	▲ 5,060					
その他	19,765	16,788	▲ 2,977					
自主事業収入	21,071	21,995	924					
支出	480,689	471,026	▲ 9,663					
指定管理業務支出	459,059	451,525	▲ 7,534					
自主事業支出	21,630	19,501	▲ 2,129					
収入-支出	▲ 7,583	▲ 4,706	2,877					
利益還元	0	0	0					
法人税等	35	718	683					
純利益	▲ 7,618	▲ 5,424	2,194					

<p>▽ 説明</p> <p>利用料金収入とは、施設利用料や物件使用料、駐車場利用料などであり、計画より5,060千円の減となった。</p> <p>▼ その他収入とは、さっぽろ市民カレッジ受講料やオペラシアターの受講料が主なものであり、2,977千円の減であった。</p> <p>▼ 自主事業収入は、自動販売機、飲食店の売上手数料収入などであり、924千円の増となった。</p> <p>▼ 退職や育児休業などで欠員が発生し、定数を下回る職員数で業務を執行することとなった。あわせて全体的に超過勤務を減らすよう業務内容及び事務分掌を見直した結果、人件費が抑制された。</p> <p>▼ 指定管理業務支出の内訳では、震災の影響により想定外の収入減・支出増が発生し、最終的に計画より7,534千円の減となった。</p> <p>▼ 自主事業支出の内訳では、寄席事業廃止により例年と比べ支出が大きく削減され、計画より2,129千円の減となった。</p>	<p>・今後は利用料金等における増収を図るとともに、収支改善に向けた取組を計画的に進めていく必要がある。</p>
---	--

＜確認項目＞ ※評価項目ではありません。		
<p>▽ 安定経営能力の維持</p>		<p>適 不適</p>
<p>▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応</p> <p>▼ 札幌市個人情報保護条例の趣旨にのっとり「公益財団法人札幌市生涯学習振興財団が保有する個人情報の保護に関する規定」及び「個人情報の取扱いについて」を制定し、個人情報を適正に管理した。</p> <p>▼ 管理サイト全体の暗号化、個人情報パスワード保護に加えチェック体制の強化に努めている。</p> <p>▼ 主な個人情報について、紙媒体は鍵付きキャビネットで、電子データはパスワード管理にて、厳格な保守管理の下、適正に取扱っている。</p> <p>▼ 情報公開については、ホームページ上で個人情報の取扱いについて、基準及び規程を公開している。</p> <p>▼ 財団の定款、役員名簿、事業計画、事業報告、財務諸表等をホームページで公開しており、センターの運営状況の積極的な情報開示を行っている。</p> <p>▼ 受託者やその他契約の相手方について、「札幌市暴力団の排除の推進に関する条例」と「暴力団の排除にかかる照会事務マニュアル」に基づき、暴力団を排除している。</p>		<p>適 不適</p>

## Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
さっぽろ市民カレッジでは、センター職員に加え、ちえりあ学習ボランティアやご近所先生(市民講師)の企画・運営による講座のほか、大学や企業とも連携した講座を実施したことで、多様な学習機会を提供することができた。また、開講時間の変更(早朝開催ほか)や開催場所の工夫(都心部)など、受講しやすい環境に配慮し企画の幅を広げることで、市民ニーズに応えることができた。	「生涯学習のまちづくり」を具現化するために、多様な学習機会の提供はもちろんのこと、「ご近所先生」と講師バンクとの連動を図ることで、身近な地域で市民が経験や学んだ成果を生かせるよう、引き続き取り組んでいく。また、第3次生涯学習推進構想に基づき「知の拠点」である図書館との連携を図り、市民に身近な場所での学習機会の拡大を図っていく。
学んだ成果を生かしたい市民を公募し、講師として育成を図る、さっぽろ市民カレッジ「ご近所先生企画講座」を、区民センターや地区センター、町内会等と共催で実施し、「市民の学び合い」をコンセプトに、地域における新たな学習コミュニティづくりを進めることができた。	市民の多種多様な学習ニーズに応えるため、引き続き、事業内容の充実化を検討していく。さっぽろ市民カレッジでは、開講時間や会場等も工夫するなどして、学習支援を一層充実させていく。また、地域の人材の発掘を図るため、ご近所先生(市民講師)の募集PRなどを強化していく。
さっぽろ市民カレッジなどの講座をはじめ、センター主催の様々な事業において、地域や関係団体のコーディネートを行なうことができた。	各区民センターや地区センター、町内会などと連携し、地域会場で実施する講座を増やしていくことで、地域における新たな学習コミュニティづくりを更に進めていく。
貸室事業については、Web仮予約を引き続き行い、貸室申込者の利便性向上を図った。またホール物件料金手続きのデジタル化や、貸室物件の利用途中での追加について手続きの簡素化を行い、快適な利用に努めた。鍵の受渡しの際に、貸室までの案内図や、利用案内を提示し、分かりやすい利用に努めた。	・Web仮予約については、予約保持期間を延長し、更なる利便性の向上を図る。
【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>・さっぽろ市民カレッジについて、要求水準である120講座を大幅に上回る281講座が実施された。また、第3次札幌市生涯学習推進構想の重点施策として、「まちの活力を高める学びの推進」の実現に向け、市民活動系、産業・ビジネス系の講座数の充実が図られたほか、同じく構想の重点施策である「身近な地域で学びを深められる環境の整備」の実現に向け、地域の図書館と連携した取組を進められた点も評価したい。</p> <p>構想の中には、生涯学習センターを核に据えた施策が多数あるため、引き続き、構想実現を意識した事業展開を進めていただきたい。</p> <p>・機械・電気設備を中心に施設の老朽化も見られる中、地震発生時も含め、利用者の安全に配慮した施設運営を行うことができた点を評価したい。</p>	<p>・令和元年6月、本市附属機関である社会教育委員会議より報告書「地域の身近な施設を活用した生涯学習について」が手交された。生涯学習センターの課題として、「地域の生涯学習を支援する取組の充実」について言及されたところである。ここでは、生涯学習センターが中核施設として本市全体の生涯学習を推進していくためには、自ら学習機会を提供する、活動場所を提供するといった取組だけでなく、これまでの活動をとおして蓄積した企画ノウハウ、講師情報やネットワークを生かして、地域の生涯学習に携わっている施設や団体等を支援する取組の必要性が述べられている。</p> <p>本報告書は、第3次札幌市生涯学習推進構想の実現に向けた具体策であることから、本書において提言された内容を踏まえた事業展開を期待したい。</p> <p>・また、H30年度に本市が実施した「生涯学習情報の収集・発信に関する調査研究業務」において、生涯学習センターのHP充実が提言されるなど、生涯学習センターHPの活用方法については課題が残されている。引き続き、HP充実策について検討を進めていただきたい。</p> <p>・収支状況について、計画値よりも決算値は改善されたものの赤字となった。赤字収支については、長期的には安定した事業運営に影響を及ぼしかねないため、引き続き、収支改善に努めていただきたい。</p>

▽ 生涯学習センター貸室別利用件数等

		H28実績	H29実績	H30計画	H30実績			H28実績	H29実績	H30計画	H30実績
ホール	件数(件)	598	613	568	587	研修室1	件数(件)	738	720	720	669
	人数(人)	123,153	126,913	117,537	143,666		人数(人)	9,210	9,303	9,303	8,839
	稼働率(%)	73.3	75.8	70.2	72.9		稼働率(%)	94.2	93.7	93.7	91.6
音楽スタジオ1 (副調整室)	件数(件)	750	743	729	757	研修室2	件数(件)	617	652	647	598
	人数(人)	7,709	7,027	6,893	8,223		人数(人)	10,287	11,315	11,223	11,391
	稼働率(%)	95.1	94.5	92.7	94.8		稼働率(%)	84.7	85.9	85.2	82.4
音楽スタジオ2	件数(件)	819	813	814	824	研修室3	件数(件)	575	602	577	563
	人数(人)	8,614	8,273	8,282	9,622		人数(人)	7,200	8,058	7,723	8,860
	稼働率(%)	97.7	97.1	97.2	96.0		稼働率(%)	83.3	84.1	80.6	80.1
演劇スタジオ1	件数(件)	817	857	849	860	研修室4	件数(件)	474	489	509	503
	人数(人)	17,052	19,945	19,761	20,682		人数(人)	6,144	6,383	6,640	8,986
	稼働率(%)	98.3	97.4	96.5	98.3		稼働率(%)	76.9	74.4	77.4	72.3
演劇スタジオ2	件数(件)	786	806	791	854	研修室5	件数(件)	556	559	571	528
	人数(人)	9,001	8,480	8,317	11,021		人数(人)	7,982	9,251	9,453	15,751
	稼働率(%)	98.0	98.8	96.9	98.8		稼働率(%)	83.3	82.4	84.2	77.8
サークル活動室1	件数(件)	847	829	833	818	研修室6	件数(件)	524	542	546	517
	人数(人)	7,188	7,097	7,133	8,833		人数(人)	7,409	9,096	9,163	15,689
	稼働率(%)	98.6	97.7	98.2	98.6		稼働率(%)	80.1	81.3	81.9	78.7
サークル活動室2	件数(件)	793	801	809	800	コンピュータ 研修室	件数(件)	260	262	249	241
	人数(人)	8,067	8,807	8,890	9,145		人数(人)	4,082	4,271	4,056	5,245
	稼働率(%)	96.3	95.1	96.0	94.8		稼働率(%)	50.7	49.6	47.1	44.4
サークル活動室3	件数(件)	737	713	689	735	アトリエ	件数(件)	355	333	357	356
	人数(人)	9,613	9,087	8,784	8,244		人数(人)	5,048	5,020	5,375	7,195
	稼働率(%)	94.2	93.1	90.0	92.2		稼働率(%)	62.5	63.7	68.2	64.3
サークル活動室4	件数(件)	629	667	647	670	陶芸室	件数(件)	250	222	217	228
	人数(人)	10,104	10,649	10,326	11,909		人数(人)	2,605	2,235	2,184	2,899
	稼働率(%)	86.2	92.2	89.4	91.4		稼働率(%)	57.6	52.4	51.2	55.6
サークル活動室5	件数(件)	630	618	610	650	映像スタジオ	件数(件)	567	510	463	556
	人数(人)	9,580	10,116	9,978	11,456		人数(人)	11,365	10,606	9,624	16,088
	稼働率(%)	90.2	87.9	86.7	88.8		稼働率(%)	86.7	81.0	73.5	81.3
大研修室	件数(件)	507	510	475	514	講堂	件数(件)	491	448	447	439
	人数(人)	29,761	33,426	31,105	41,407		人数(人)	58,045	55,572	55,491	64,738
	稼働率(%)	74.9	74.9	69.7	77.8		稼働率(%)	73.5	68.3	68.2	69.7
中研修室1	件数(件)	536	494	462	510	和室・茶室	件数(件)	428	422	340	432
	人数(人)	17,599	19,679	18,389	24,966		人数(人)	3,823	3,631	2,921	4,035
	稼働率(%)	79.0	77.8	72.7	78.1		稼働率(%)	70.6	70.6	56.8	73.2
中研修室2	件数(件)	585	595	574	594	全体	件数(件)	14,869	14,820	14,460	14,803
	人数(人)	16,517	21,077	20,343	26,515		人数(人)	407,158	425,317	414,994	505,405
	稼働率(%)	85.9	89.0	85.9	89.3		稼働率(%)	82.9	82.4	80.4	81.7

●H30計画値について

稼働率のH30計画値は、指定管理者提案書(H30～R4)の中で提出した目標数値に基づく値となっている。  
件数及び人数の計画値は算出していないため、稼働率の計画値でH29実績を割り返し、目安の数値を出している。

# 平成30年度 (公財)札幌市生涯学習振興財団・生涯学習センター研修会参加一覧

	研修会等名	主催団体	日程	会場	参加者	区分	
						指定管理	内容
1	平成31年度EMS研修	札幌市	7/19(金)	札幌市役所本庁舎	施設課施設係1名	N	環境
2	平成30年度全国生涯学習センター等研究交流会	国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 全国生涯学習・社会教育センター等協議会	5/24(木)～25(金)	国立教育政策研究所社会教育実践研究センター	事業課学習企画係1名	G	業務知識
3	平成30年度第1回ホール連絡協議会	ホール連絡協議会	6/20(水)	江別市民会館	施設課施設係2名	I	業務知識
4	救命講習会	札幌防火管理者協会	7/10(火)	白石区民センター	事業課学習企画係1名	M	防火・防災
5	救命講習会	札幌防火管理者協会	7/17(火)	ロイトン札幌	事業課メディア・視聴覚係1名	M	防火・防災
6	図書館職員の広報企画研修	札幌市中央図書館	7/11(水)	札幌市中央図書館	事業課メディア・視聴覚係1名	I	業務知識
7	北海道地域別会場・音楽堂等アートマネジメント研修会	文化庁 公益社団法人 全国公立文化施設協会	8/28(火)～ 8/29(水)	北広島市芸術文化ホール	施設課施設係1名	C	業務知識
8	労働契約等解説セミナー	厚生労働省労働基準局	8/30(木)	北海道建設会館	施設課施設係長 施設課施設係2名	I	業務知識
9	事業者向け省エネルギー実践セミナー	札幌市	9/6(木)	札幌市教育文化会館	施設課施設係1名	N	環境
10	労働契約等解説セミナー	厚生労働省労働基準局	10/22(月)	北海道建設会館	施設課施設係長 施設課施設係2名	I	業務知識
11	第104回全国図書館大会東京大会	公益社団法人日本図書館協会	10/19(金)～20(日)	国立オリンピック記念青少年総合センター	事業課メディア視聴覚係1名	I	業務知識
12	平成30年度 防火管理技能講習会	札幌防火管理者協会	10/2(火)	札幌市消防学校	事業課メディア視聴覚係1名	M	防火・防災
13	家庭読書フォーラム	札幌市中央図書館	10/13(土)	札幌市生涯学習センター講堂	事業課学習企画係3名	I	業務知識
14	第20回図書館総合展	図書館総合展運営委員会	10/30(火)～ 11/1(木)	パシフィコ横浜	事業課学習企画係1名	I	業務知識
15	第22回視聴覚教育総合全国大会・第69回放送教育研究会全国大会合同大会	全国放送教育研究会連盟、NHK、視聴覚教育総合全国大会連絡協議会	11/16(金)～17(土)	広島市映像文化ライブラリー、広島国際会議場	事業課メディア視聴覚係1名	I	業務知識
16	平成30年度教養セミナー	札幌危険物安全協会 札幌防火管理者協会	11/5(月)	ロイトン札幌	事業課メディア視聴覚係1名	A	接客・接遇
17	図書館員の実践力強化研修	札幌市中央図書館	11/14(水)	札幌市中央図書館	事業課メディア・視聴覚係1名	I	業務知識
18	甲種防火管理・防災管理新規講習	札幌市	12/4(火)～5(水)	札幌市民防災センター	施設課施設課長	M	防火・防災

19	図書館員のための障害者サービス研修	札幌市教育委員会中央図書館	1/23(水)	札幌市中央図書館	事業課メディア視聴覚係1名	I	業務知識
20	平成30年度第2回ホール連絡協議会	恵庭市民会館	1/31(木)	恵庭市民会館	施設課施設係2名	I	業務知識
21	防火管理実務講習会	札幌防火管理者協会	2/12(火)	道新ホール	施設課施設係長	M	防火・防災
22	制作作品をミニシアターで上映する	ちえりあビデオクレー	3/2(土)	北海道教育大学岩見沢校	学習企画係3名	U	業務知識
23	フィードバック研修	札幌市中央図書館	3/13(水)	札幌市中央図書館	事業課メディア・視聴覚係1名	I	業務知識
24	平成30年度札幌市公式ホームページ担当者レベルアップ講習	札幌市総務局広報部広報課広報調整係	3/15(金)	わくわくホリデーホール(札幌市民ホール)	施設課施設係1名	I	業務知識
25	公益法人 決算実務セミナー	税理士法人さくら総合会計	3/13(水)	かでの2・7	施設課施設係1名	I	業務知識
26	メンタルヘルス研修	札幌市生涯学習振興財団	1/29(火)	青少年科学館	施設課施設係4名 事業課学習企画係3名	P	メンタルヘルス
27	社労士研修	札幌市生涯学習振興財団	2/6(水) 2/20(水)	札幌市生涯学習センター	施設課施設係12名 事業課学習企画係12名 事業課メディア視聴覚係9名	I	業務知識
28	生涯学習関連施設職員研修	札幌市生涯学習振興財団	2/19(火) 2/20(水)	札幌市生涯学習センター中研修室1	事業課学習企画係4名 事業課メディア・視聴覚係1名	A	接客・接遇
29	ボランティア団体の高齢化を考える。	ちえりあ学習ボランティア	6/16(土)	札幌市生涯学習センターボランティア室	事業課学習企画係3名	U	業務知識
30	近年の個人ビデオ動向: パーソナルなテーマ創出と新しい小型機材	ちえりあビデオクレー	8/18(土)	札幌市生涯学習センターボランティア室	事業課学習企画係2名	U	業務知識